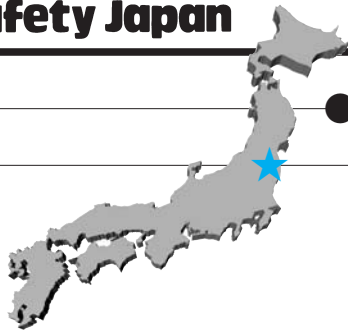


地域のチカラ

●福島県の交通安全活動



様々な教育システムや装置を駆使して 高齢者に対する意識を高めてもらおう

福島県は8年連続で交通事故発生件数・死者数・負傷者数が減少している。これは全国でも福島県だけである。その福島県が力を入れてきたのが高齢者対策。平成22年は高齢者の交通事故死者数50人以下を目指し、「シルバーガード50作戦」として施策を展開している。

歩行者教育システムの活用

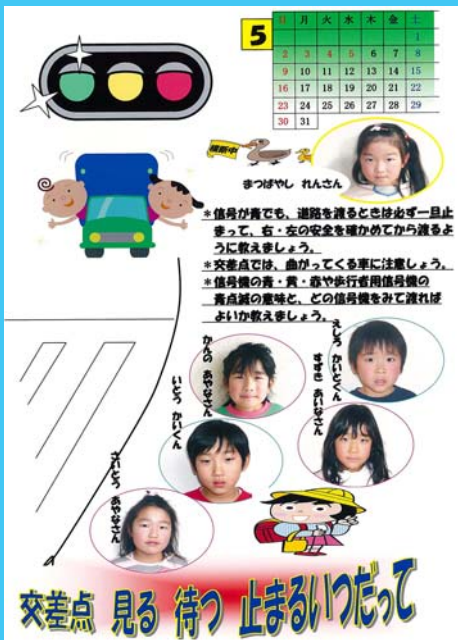
高齢歩行者への対策としては、歩行者教育システムを活用して積極的な出前型の講習会を開催、平成21年12月末までに高齢者を中心に約7000人が受講した。

「このシステムによる教育は高齢者の皆さんにわかりやすいと好評です。最近では、こうした講習会に高齢者だけでなく、若いドライバーにも参加してもらっています。若い方にも高齢者疑似体験セットを着用して、高齢者と同じように歩行体験を行っていただきます。道路を横

●交通安全母の会の活動

手作りのツールを使って 各家庭に啓発

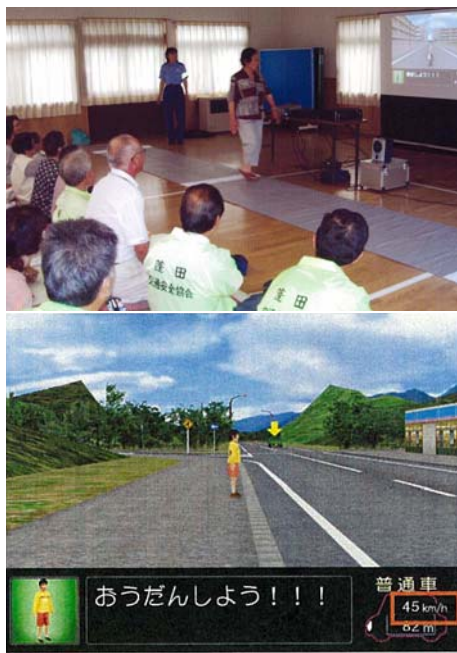
福島市の飯野町交通安全母の会では、会員の創意工夫を凝らした交通安全活動を展開している。その1つが「交通安全カレンダー」の制作だ。制作したものは毎年3月、小学校に入学する子どもがいる家庭に配布される。毎月のカレンダーには交通安全標語、道路を歩く時に注意すべきポイント、その月に誕生日を迎える町内の子どもたちの写真が掲載されている。



12年前、このカレンダーを発売した同会会長の須田美恵子さんはその背景を次のように語る。

「仕事をしながら、子育てをしている母親が増えていることもあり、交通安全教育まで気が回らないお母さん方が少なくないように感じていました。こうしたお母さん方に、少しでも交通安全に興味を持ってもらおうと考えました。このカレンダーを見れば、月に1回、親から子へ事故防止のアドバイスができるようになっていきます。自分や友だちの顔写真入りですから、子どもたちも大事にしてくれます」。

同会では年間30回以上、町内の幼稚園・保育園、小学校を訪問して、交通安全指導を行っている。こうした場でも、須田さんらがつくった「すごろく」や「間違いさがし」などの教材が活躍している。



※歩行者教育システム＝道路に見立てたマット上を横断し、その状況をスクリーンの映像と合成する機能により、横断時の危険性を体験してもらシステム。体験者が実際に歩くと、スクリーン上の歩行者も同じ速度で動く。スクリーンに映し出されるクルマが遠くに見えて安全と思いつつも、そのクルマがスピードを出していたら、自分の予想以上に早く接近してしまう様子を体験できる。

高齢者に多い 夜間横断事故を防ぐ

福島県では高齢歩行者の死者の約7割は夜間に事故にあっている（平成21年

中）。こうした状況をふまえ、福島県警では今年から「夜間横断事故防止懇談会」を展開。今年4月末までに30回以上開催した。この懇談会は、高齢者自ら考える講習となったのが特徴。警察官が高齢歩行者に多い夜間横断時の事故事例を紹介し、高齢者に事故にあわないためにはどうしたら良いかグループ単位で話し合い、その結果を「安全の誓い」として書面にまとめてもらうようにしている。

一方、ドライバーには「上向きライトとで、危険を早く察知できるだけでなく、こまめに切り替えることでドライバーの緊張感を保ち、漫然運転の防止につながります」と大高さんは説明する。

また、福島県警では講習会などに参加していない高齢者で、幹線道路付近に住んでいる方、自転車や電動車いすでの外出が多い方などを「要指導高齢者」と位置づけている。こうした高齢者には警察官や高齢者交通安全指導隊と呼ばれるボランティア組織が自宅を訪問して草の根的な指導を行っている。



一般のドライバーに耳栓や特殊メガネ、サポーターやおもり等を装着し、疑似的に高齢者になった状態で歩いてもらう

高齢運転者支援装置を 独自に開発

高齢ドライバーへの事故防止対策として福島県警が取り組んでいるのが、安全運転支援装置「安全くん」の普及だ。「安全くん」は福島県警が関係機関・団体と連携して、平成20年に開発したものである。

運転操作に連動し、音声アウタンスによってドライバーへの注意を喚起する。例えば、キーをオンにした時は「シートベルトを締めましょう」、左折時には「左後方に気をつけましょう」というアウタンスが流れる。開発に当たっては、自動車教習所での実証実験も行われた。本体価格は1万2000円（取付工賃別）であるが、自治体や交通安全協会が購入や取付にかかる費用の補助を行うことで、徐々に普及している。今年から、JA共済連による交通事故防止支援事業により福島県交通安全協会に約850台の寄贈があるという。

「安全くん」のアウタンスを聞くことによって、高齢ドライバーの皆さんに少しでも安全運転の基本を再確認して、自分の運転を見直すきっかけにしたい」と大高さんは、さらなる普及を図っていく考えだ。



福島県警が関係機関・団体と連携して、平成20年に開発した安全運転支援装置「安全くん」